



ウェルビー



災害医療とは、災害医療とは需要が供給を上回る状態で行う医療で、時間・人的物的資源などが限られた状況下において内因・外因を問わず様々な傷病に対して緊急対応が求められます。少しでも多くの人を助けるためにトリアージが実施され傷病者を重症者、中等症者、軽症者に分けて対応を行います。

救急医療では、人員、医薬品、資器材を一人の患者に必要な応じて最大限使い一人一人にベストな医療を提供します。それに対して災害医療は、限られた資源で最大多数の患者の救命、良好な予後を追求するため、個別の治療は制限を受けます。

災害医療とは！

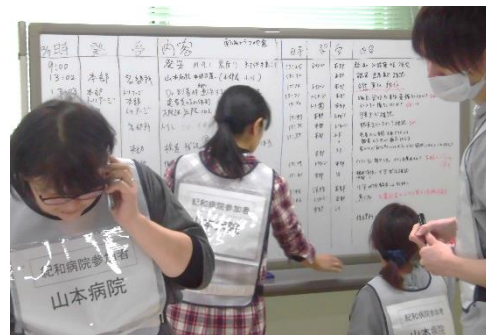
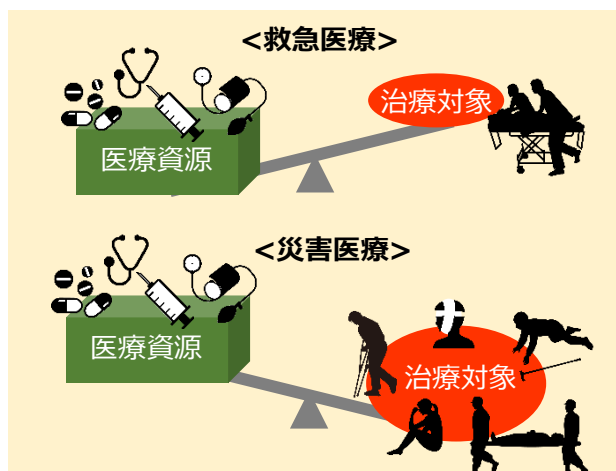


災害医療フォーラム

災害支援病院

当院は災害支援病院となっており、災害時に備えた医療対策訓練を行っています。今年12月7日に、南海トラフを震源とする大災害が発生したと想定し訓練を行いました。昨年と同様、多数の傷病者に対応するため、本部及び災害時に新設するトリアージエリアなどの立ち上げや情報伝達、病棟での受入れ体制の確立などに重点を置き災害時の行動・手順の確認を行いました。

訓練の成果に満足することなく、いつ起こることもわからない災害に備え、発災時には迅速に対応するべく職員一同努めていきます。



今年はサステナビリティ（持続可能性）のある社会の実現に向けて舵を切ろう。

サステナビリティ（持続可能性）とは 1987 年国連の「環境と開発に関する世界委員会」で提唱された言葉で、次のように述べられています。「持続可能（サステナブル）な開発とは将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」です。開発に限らず社会活動にとっても、サステナビリティ（持続可能性）を満たすことは非常に重要な大前提とされています。

昨年、一昨年の日本における台風の強大化、豪雨の増加などの世界的な異常気象は、将来の世代にとってとても迷惑な贈り物となります。もしそれが、化石燃料などの CO2 排出が原因であるなら今の世代の享受のために、将来世代につけを回すことに他ならないでしょう。サステナビリティと全く相容れない状況といえます。

昨年ノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんはその記念講演の中で、リチウムイオン電池が持続可能（サステナブル）な社会の実現に向けて中心的な役割を担う。と主張されました。太陽光発電や風力発電など再生可能エネ

ルギーの不安定性を補い、余分なときには蓄え、足りないときには放出する事で安定供給が可能となるからです。

自然を開発していく過程で、道を作り、木を切り、山を壊して自然が失われる中で、動植物も多数が絶滅し、絶滅危惧種もどんどん増えています。人間の使い捨てたプラスチックゴミが海洋を汚染し海洋生物の絶滅にも影響しかねないこんな悪循環から抜け出して、持続可能（サステナブル）な社会に戻ることが喫緊の課題だと思います。

一方、サステナビリティを組織に当てはめると、組織の持続可能な発展ということになります。我が法人も 30 年を超えて、これまで次の世代に向けて準備すべき教育や指針などが、十分にそろわないまま動いてきたのが現状ではないかと思っています。2020 年は次のステップに向けてしっかりとレールを敷く年としてやっていかなければなりません。本年もよろしくお願いします。



理事長 佐藤 雅司



静かに令和 2 年が明けました。

皆様おめでとございます。というのは言い過ぎで、米朝関係、米中関係や EU の体制がどうなるかは全く判りません。そういう意味でわれわれは第二次世界大戦以後の国際情勢の中では体験したことがない程、激動の時代に生きているといえます。

2020 年、すぐに思い出すのは、夏に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックでしょうか。日本勢の金メダルの獲得に期待がかかります。

4 月には、新しい診療報酬が改訂されます。今年は、本体部分は 0.55%（国費で 600 億円程度）上げ、薬価部分は 0.98%（1100 億円）削減され、全体では、0.46%の引き下げとなります。改訂の内容についてはこれから細やかなせめぎ合いが続きます。医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進などと銘打って、医療費の削減や医師の診療科選択や勤務地までもコントロールする意図が垣間みられます。

紀和病院についてみてみますと、2019 年には、新進気鋭の 3 人の医師が入職して下さいました。林部章院長補佐（外科担当）（先生に新進気鋭というのは少々当たっていないかもしれませんが・・・）、堀口圭補先

生（総合診療担当）、中井志保先生（糖尿病専門医）の皆さんです。紀和病院の新しい顔としてご活躍して下さいますよう期待しています。

1 月から紀和クリニックには、奈良医大と近畿大学から非常勤の先生が赴任されます。いずれも非常に優秀な先生方ですので、外来機能のアップに多大の貢献をしていただけるものと信じています。病院側としても先生方の診療をサポートする十分な体制を作をお願いします。

病院の稼働率が常時 90%を超えて現場のスタッフの疲弊が目に見えるようになっていきます。病院としては、人材の確保に努力しますが、職場の環境改善と職員間の意思疎通が重要です。教育環境を良くすることが職員の満足に繋がることが証明されています。小さなことでも気軽に相談できる職場作りを目指したいと思います。

ご協力をお願いいたします。

今年は、2 月 3 月に不整脈の治療、感染対策の講演会を開催する予定にしています。職員の皆さんの参加をお願いします。



院長 西口 孝



在宅人工呼吸器使用者のための災害時対応確認会議

逃げ遅れをなくそう！

予期せぬ災害が起きた時、ご自宅で人工呼吸器を使用されている方にどのように支援するかを、各関係機関や地域の方々が集まり話し合いました。対応の流れや持ち出し品の確認をしたり、伊都消防救急隊のご指導のもと、実際に搬送や蘇生バッグ、酸素ボンベの使い方を訓練しました。院内の災害対策のみでなく、在宅患者さんがスムーズに避難できるように今後も取り組んでいきます。

警戒レベル 5 既に災害が発生している状況です
(市町村が発令)

警戒レベル 4 全員避難
(市町村が発令)

警戒レベル 3 避難に時間を要する人は避難
(市町村が発令) (ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)

警戒レベル 2 避難行動の確認
警戒レベル 1 心構えを高める (気象庁が発表)



蘇生バッグの使い方確認



酸素ボンベの使い方確認



地域の方々が協力しての搬送訓練

FMはしもと
81.6 MHz

番組タイトル

「紀和病院のきわめびと」



毎週水曜日
午後 16:30~



「紀和病院のきわめびと」として、
地域のみなさんへ旬な医療の話題などを通して、
私たち南労会の想いをお届けしています！

11月は、**内科特集！ 消化器内科部長 出島牧彦 医師**が
日本人にとって身近な胃の病気にズームイン。胃カメラやピロリ菌についてお話しました。
内科（総合診療科） 吉田康弘 医師は糖尿病や高齢の方の終末期についてお話しました。



出島牧彦



吉田康弘



林ミユキ

山崎亨子

12月は、**認定看護師特集 第二弾！**

糖尿病看護認定看護師 山崎 亨子、救急看護認定看護師 林 ミユキ。
常に変化する医療現場の最前線で働く看護師がそれぞれの認定分野について詳しくお話しました。

1月はい！ 医局長 内科部長 川幡誠一
看護部部長 池田亜矢子 **が出演します**

番組情報 放送日 毎週水曜日 16:30~16:45 周波数 81.6MHz



10/26 乳がんいのちプロジェクト市民公開講座 「いのち～inochi～一步一步、前へ。」

第8回乳がんいのちプロジェクト市民公開講座を橋本市保健福祉センターで開催いたしました。200名以上の方にご来場いただき、笑いあり、真剣な場面あり！の盛りだくさんで盛大な一日を、無事に終えることができました。また、二部ピンクライトアップ点灯式 慈尊院さんへも大勢の方がご来場くださり、本当にありがとうございました！！

WELLBEING NEWS



11/9
地域リハビリテーション
専門職対象研修会
『医療福祉現場におけるオリヒメの活用』と題して、株式会社オリ研究の常田剛生氏にご講演いただき、分身ロボット「OriHime」のデモンストレーションやオリヒメの活用事例などを紹介していただきました。



11/13 消防訓練

『火災報知機による通報～119番通報～初期消火～避難～安否確認』という流れを体験した後、水消火器を使って消火訓練をしました。火災時に迅速・安全な対応ができるよう心掛けていきます。

10/9～11
緩和ケア病棟相談会&見学会
緩和ケアに関する相談、また病棟内の見学会を行いました。参加者は52名！がん患者さんやご家族の方など一般の方もお越しくださいました。緩和ケア病棟はこれからその人らしい生を過ごせるように寄り添い、支援していきます。



12/13 サークルK IWA



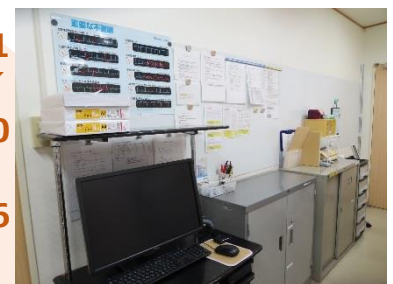
「大正琴 四つ葉」のみなさんがお越しくださり、大正琴の演奏会を開催しました。昂やサライなどの名曲や演歌を演奏いただき、みなで合唱しました。患者さん、利用者さんにも楽しい一時をお過ごしただけにご様子でした。



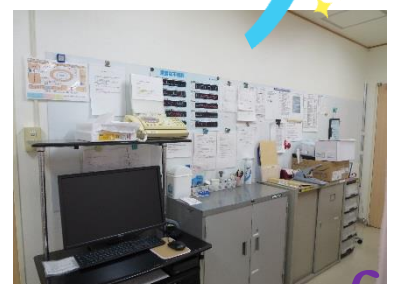
12/17 スキルアップ研修会での講演

九度山町地域包括支援センター主催のスキルアップ研修会に緩和ケア科医長 廣岡医師が「辛さを抱えた患者さんに向き合う医療者に必要なものって？」をテーマに講演させていただきました。

11/20～26
医療安全推進週間
5S（ゴーエス）活動を実施しました。5Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・躰（習慣化）。職場の環境改善を向上するために用いられています。安全・快適・業務効率の向上につなげ、より患者安全を目指して取り組んでいます。



After



Before

地域連携室便り

医療法人幸生会 米田小児科医院

私は、かつらぎ町で小児科を開業しています米田勝紀（よねだかつのり）です。医者になったのは、平成元年（1989年）4月、和歌山県立医科大学小児科に入局して30年が経過しました。

私が小学校5年生ぐらいに父親が紀北分院から当地で開業しまして、平成7年（1995年）4月父親が胃癌のため急逝し、あとを継いで開業しました。高校生までは地元の公立の学校で大学は岡山県倉敷市にある川崎医科大学でした。運動は中高で軟式テニス（現在はソフトテニス）、大学ではバドミントンをやっていました。開業して数年はバドミントンもやっていました。今は、もっぱら自宅のTVでスポーツ観戦ばかりです。



地域の 架け橋

当院の診療方針は、出来るだけ薬を抑えるようにすすめており、抗生剤の使用を抑える・解熱剤・抗ヒスタミン薬・咳止めを使用しないという方針です。抗生剤の投与の可否を決めるため、5分画がでる（好中球数がわかる）白血球数測定およびCRP測定を発熱時に行っております。また、迅速検査を準備し、溶連菌・インフルエンザ・アデノウイルス・RSウイルス・hMPウイルス・便ロタ・アデノウイルス・マイコプラズマの診断がつくようにしております。画像診断は、レントゲン・エコーを用意し心電図もとれます。予防接種は各種対応しており、海外研修のりに御利用いただくこともあります。

紀和病院さんには、訪問看護をウエルビーさんをお願いしていました。また、私たち夫婦の毎年の健康診断もお願いしています。紀和病院さんは地域医療に貢献しておられ、頼りになる病院です。今後ともよろしくお願いします。

* 本文は院長 米田 勝紀 先生よりご寄稿いただきました。

米田小児科医院 TEL 0736-22-3065

和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺 437-13

居心地のいい場所

ゆったり・・・
まったり・・・

当院協力施設

特別養護老人ホーム

あさひ



あさひは、介護が必要な方が日常生活を送る施設です。明るく家庭的な雰囲気、地域や家族の方々との結びつきを重視した運営を行っています。お部屋は個室で、利用される方、一人ひとりに寄り添ったケアを行っています。



特別養護老人ホーム あさひ

和歌山県伊都郡かつらぎ町西飯降 461 番 6

☎ 0736-23-3010

当院は地域の施設・福祉機関と連携を取り、入院から退院、退院後の患者さんの生活までを安心して過ごして頂けるよう努めています。そこで新たな取り組みとして、当院協力施設をご紹介させていただくことになりました。「居心地のいい場所」と題して、皆さんの過ごされている施設を特集していきますので、楽しみに！

リハビリテーション公開講座

（12月14日開催内容）

簡単にできる 体力セルフチェック

講師：作業療法士 山本 高子

**ご自身の健康状態を把握し、
早めの回復・改善で健康な
生活を！**

健康寿命

健康 フレイル 要支援 要介護



ここが重要！

生物学的寿命

フレイルチェック

（「はい」の場合チェック）

- ☐ 半年間で2〜3キロ以上の体重減少があった
 - ☐ 以前より歩く速さが遅くなった
 - ☐ （ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする
- （「いいえ」の場合チェック）
- ☐ ウォーキングなどの運動を週1回以上をしている
 - ☐ 5分前のことを思い出せる

その他にもサルコペニアやロコモなど様々なチェックがあります。

0点
健康
1-2点
プレフレイル
3点以上
フレイル

次回開催

ご案内

福祉用具の選び方、自助具の考え方

2020年3月7日（土）11:00〜12:00
開催場所 紀和病院 4階ウエルビーホール